

〈セクションV 愛の作品群へ〉 司会：千々岩 靖子（国際基督教大学教養学部客員准教授）

「反抗」から「愛」へ

安藤 智子

【要旨】

カミュは『反抗的人間』の最後で、反抗には他者へのとりわけ虐げられた者たちへの「奇妙な愛」が伴うことを明記し、反抗を「愛と豊穣」という言葉で再定義している。そして、この豊穣もまた奇妙な、カミュ独自の意味で用いられていることは、毒麦や苦い食物という表現が出てくるところに窺い知れる。本発表では他者および豊穣のイメージが『ペスト』から『最初の人間』にかけてどのような変化するかをたどり、「我思う、故に我らあり」の後に続く愛がいかなるものとして構想されていたかを考察する。



【プロフィール】安藤 智子（あんどう・ともこ）…パリ・ソルボンヌ大学博士課程修了（フランス文学）、日本カミュ研究会会員、九州大学および西南学院大学非常勤講師。主なフランス語論文に「アルベール・カミュの作品におけるノスタルジー」（学位論文、2014年）、「プロテイノスの郷愁とカミュの不条理」（『ステラ』九州大学フランス語フランス文学会、第33号、2014年12月、277-301頁）、日本フランス語フランス文学会奨励賞受賞。主な日本語論文に「カミュの『貧しさへのノスタルジー』—初期草稿をめぐって—」（『フランス語フランス文学研究』、日本フランス語フランス文学会、第108号、2016年3月、193-205頁）。